

事務事業評価表(既存事業)

コード 8-6-2	事務事業名 白子川改修事業	所管部課 都市整備部下水道課					
事務事業の概要	事務事業の目的 集中豪雨に伴う道路冠水等、白子川流域における溢水地域の解消を図る。	総合計画上の位置づけ (政策)安全で快適に暮らすまちづくり (施策)安全な暮らしのために (主要施策)災害に強いまちづくり					
	実施内容、実施方法 平成14～15年度(第1期) 杭打ち施工(河川幅1.8mを2.0mに拡幅) 平成16～17年度(第2期) 浚渫、低部コンクリート打、蓋掛等(河床高1mを2.7mに掘下げ)	根拠法令等					
	事業開始時期 平成14年度	実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他( )					
評価指標の設定	活動指標名 工事実績(施工延長)	活動指標の考え方(定義) 市が改修工事を行った施工延長(m)					
	成果指標名 第1期、第2期の工事完成率 時間当たりの降雨量対心力	成果指標の考え方(定義) 第1期、第2期工事の施工延長計画に対する完成率(%) 改修工事を行うことにより、時間当たり降雨量の対心力(mm/h)が向上する。					
事務事業データ		単位	14年度	15年度	16年度	17年度	
	事業費(A)		106,230	161,750	87,000	72,972	
	国庫支出金	千円					
	都支出金		19,000	8,800			
	地方債		63,700	151,300	81,200	67,700	
	その他						
	一般財源		23,530	1,650	5,800	5,272	
	所要人員(B)	人	1.43	1.67	1.36	0.65	
	人件費(C)=平均給与×(B)	千円	11,791.8	13,815.9	11,326.1	5,413.2	
	総コスト(D)=(A)+(C)	千円	118,022	175,566	98,326	78,385	
	単位当たりコスト (E)=(D)/(施工延長(m))	千円	1,909.7	1,863.8	933.8		
	歳入	千円					
	活動指標	目標値(m)	m			105.3	88.3
		実績値(m)	m	61.8	94.2	105.3	
活動指標	目標値						
	実績値						
成果指標	目標値(%)	%			74.7	100	
	実績値(%)	%	17.7	44.6	74.7		
成果指標	目標値(mm/h)	mm/h				30	
	実績値(mm/h)	mm/h					
事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)						
	国・都・他市・民間等 における類似事業						
	運営上の制約条件・ 外部要因等		河川そのものの改修は完了することになるが、周辺地域の開発等、環境の変化に伴う流入区域等の状況変化を注視していく必要がある。				

コード 8-6-2	事務事業名 白子川改修事業	所管部課 都市整備部下水道課
--------------	------------------	-------------------

事業所管部評価	項目	評価結果	判断理由、説明等
	実績	<input type="checkbox"/> 極めて良好 <input checked="" type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不十分 <input type="checkbox"/> 極めて不十分	白子川流域の溢水地域について、当該事業が平成17年度に完了することにより、集中豪雨時の治水能力が向上し、溢水被害の減少に寄与している。
	必要性	<input type="checkbox"/> 増大 <input checked="" type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 減少、一部なし <input type="checkbox"/> かなり減少	白子川流域の地域周辺は、集中豪雨発生時に道路冠水や浸水など被害が発生していることから、早急にその対策を行う必要がある。
	効率性	<input type="checkbox"/> 大きく改善 <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	本工事区間は住宅密集地の中を流れているため、新工法の技術開発や施工機械の小型化などにより、狭隘な場所での施工が可能となっている。よって今回の施工方法は効率的な方法である。
	公平性	<input type="checkbox"/> より充実 <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	白子川流域の溢水被害を防ぐため、総合計画に位置づけられている「災害に強いまちづくり」を推進し、住民の安全確保を図っている。
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input checked="" type="checkbox"/> 廃止・休止	平成17年度までに改修事業全てが完成し、対策効果は高められたものの、流域河川が放流規制にあるため、抜本的解消に至っていない。そのため今後については、現状を踏まえ、継続した対策が求められている。

17年度における改善点	
-------------	--

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止
--------	--

**評価の視点**

実績：十分な成果をあげているか。必要以上のサービスにより、経費が過大となっていないか。など

必要性：国・都・民間での実施状況に鑑み、市が実施すべき事業といえるか。社会経済状況の変化を踏まえて実施しているか。廃止した場合に大きなデメリットは生じるか。など

効率性：限られた財源を有効に活用しているか。現在の実施方法が最も効率的な方法といえるか。など

公平性：サービス対象に問題はないか。利用者の利便性に配慮しているか。受益者負担の水準は妥当か。など

総合評価：各項目の評価及び類似団体等とのサービス水準の比較を踏まえた、今後の事業のあり方・方向性。

拡充：ニーズの増大に対応して、事業を更に強化する必要があるもの。

継続実施：現状水準で事業を継続していくもの。給付対象者の自然増減に伴いコストが増減する場合を含む。

改善・見直し：現在の仕組みを前提としつつ、実施方法の見直しなどにより改善を図るべきもの。

抜本的見直し：事業の委託化や一部廃止など、事業の仕組みを含めた根本的な見直しが必要なもの。

廃止・休止：事業を休止又は廃止するもの。単年度事業など、終了が確定しているものを含む。